

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 元年 9月 18日

事業所名:こどもたちの窓Solana(ソラナ:ひだまり)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・落ち着きやすい様、畳の部屋を用意している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・障がいの特性に見合った職員配置を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・視覚的に分かりやすい様、季節にあった壁面や個々の1日の流れ等を作っている。 ・部屋に安全クッションを付け安全面に配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・活動に合わせて環境を変えている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・月に1度ミーティングを開き、より良いサービスを目指している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者アンケートを実施して「保護者等向け評価表」を作成している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページを開設したのでそちらで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・保護者アンケートを実施し評価結果を業務改善に繋げている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・外部研修に参加し、支援に繋げている。研修を受けた指導員は他の指導員と情報を共有している。内部研修も行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・こどもの日々の様子や保護者のニーズ・課題を分析して計画書を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・こども一人ひとりに見合った支援を考え設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・活動プログラムの内容は毎月のミーティングで意見を出し合い決定している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・こどもたちが様々な経験をつめるよう、長期休みにはイベントを取り入れている。 ・イベント情報をためにチェックしている。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・年齢層に応じた対応を心掛けている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・送迎表や1日の流れを書いたボードを基に確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・支援終了後、その日の振り返りを行い、至らなかった点を改善するなど、意見を出し合いより良い支援へ繋げられるよう努めている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・日々の記録を付けることで支援計画のモニタリングに活かしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・半年ごとのモニタリングで成長過程に合わせて支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・内容をよく把握しているスタッフが参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・子育て支援サークルへ顔を出し、情報共有をはかっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				・医療的ケアが必要な子どもは現在、利用していない。受け入れる場合は密に連携を取るようにする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				・医師の指示に基づき医療行為を看護師が実施するようにする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・利用を開始する際には、保護者や関係機関から情報収集をしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・利用を開始する際には、保護者や関係機関から情報収集をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・研修を受け、他事業所から連携や支援における助言をいただいている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・近所の公園へ行ったり、地域のイベント等に参加し、交流を深めている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・積極的に参加し情報の共有に努めている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡帳や送迎時、電話などでも連絡を取り合っている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		・会話の中での助言は行っているが、「ペアレント・トレーニング」はしていないので勉強し、質の向上を目指す。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用を開始する際には、丁寧に説明をしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・同意を得てからサインをもらっている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・送迎時や電話、メール、面談などで助言を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・保護者参加型のイベントを考えたが、集まるは難しいのが現状だった。また交流できる機会を考えたと思う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・苦情相談窓口を設置し責任者を置いて対応している。申入れがあった際には迅速に対応しすぐに解決できるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、行事カレンダーを配布している。緊急の場合はお知らせの手紙を渡している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・鍵付きのBOXに入れ厳重に管理している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・保護者には連絡帳にて、その日の様子を伝えている。 ・子どもにはイラストを付け視覚的に分かりやすくしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・イベントの招待等はしていないが、区民祭り等の地域行事に参加し交流をはかっている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・内部研修を通して訓練を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・半年に1回、避難訓練を実施し記録している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		・利用開始前に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・医師の指示や保護者からの情報に基づいて食物アレルギーのある子どもについては配慮して対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・「ヒヤリハット」は財産であり、そこから学んだことをより良い支援に繋げられるよう共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・言葉の投げ掛け方によっては精神的な虐待に繋がることもあるため言葉掛けについては十分に注意している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				・現在、身体拘束は行ってないが、必要な場合は十分に話し合い合意のもと記載する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。